

テキストマイニング手法による 「就職活動体験記」に対する学生の所感分析

A Text Mining Analysis of Students' Comments on Job-Search Experiences of Senior Students

石 嶺 ちづる

Chizuru Ishimine

豊 田 雄 彦

Yuhiko Toyoda

竹 内 美 香

Mika Takeuchi

抄 録 学校から職業への移行プロセスが長期化・多様化する今日、大学・短期大学等において学生の社会的・職業的自立に関する支援（キャリアガイダンス）提供のための体制整備が急務となっている。筆者らのこれまでの研究において、就職活動既体験者が作成した「就職活動体験記」のキャリアガイダンスツールとしての意義（有用性）が明らかにされている。

本研究では、これらの有用性の中でも、これから就職活動を体験する学生にとって「就職活動体験記」を読むという学習プログラムの有効性について検討した。「就職活動体験記」で取り扱われる主題の中でも、就職活動初期に関するものに対して学生は関心を示しており、これから体験する就職活動に対するリアリティーの醸成に一定の効果があることが看取できた。また、体験記に対する学生の受け止め内容と実際の就職活動の関連性についての分析から、「早く活動する」等の具体的な言及は実際の就職活動に影響を及ぼすことが分かった。

キーワード 就職活動・キャリアガイダンス・テキストマイニング・主題分析・リアリティーの醸成

1. はじめに

- 1.1 大学における社会的・職業的自立に関する指導の必要性
- 1.2 キャリアガイダンスのツールとしての「就職活動体験記録」の意義
- 1.3 本研究の課題

2. 本研究の方法

- 2.1 対象者と時期
- 2.2 テキストマイニングと就職活動状況調査の方法

3. 「『就職活動体験記』の受け止め」の解析結果

- 3.1 頻出語の抽出について
- 3.2 クラスターリングの実施
- 3.3 就職活動の状況について
- 3.4 提示された就職活動体験記と「受け止め

②（共感したケース）」の比較

- 3.5 「『就職活動体験記』の受け止め」の記述内容と就職活動状況
 - 3.5.1 キャリア支援センターへの相談開始時期
 - 3.5.2 キャリア支援センターへの相談頻度
- 3.6 具体的な記述内容が就職活動におよぼす影響
 - 3.6.1 就職活動開始時期と「『就職活動体験記』の受け止め」に記載されたキーワード（早く活動）の出現率
 - 3.6.2 活動の継続性と「『就職活動体験記』の受け止め」に記載されたキーワード（諦めない）の出現率

4. おわりに—考察と結論—

5. 今後の課題

2012年5月9日 受理

1. はじめに

1. 1 大学における社会的・職業的自立に関する指導の必要性

学校から職業への移行プロセスが長期化・多様化する今日、大学・短期大学等の高等教育機関（以下、大学）においても、その機関に在籍する学生に対してその社会的・職業的自立に関する指導を行う必要性があることが近年指摘されている。

2008年12月の中央教育審議会「学士課程教育の構築に向けて（答申）」では、上記のことを踏まえ、学生が入学時から自らの職業観・労働観を培い、社会人として必要な資質能力を形成していくことができるよう、教育課程内外にわたり、授業科目の選択等の履修指導、相談、その他助言、情報提供を段階に応じて行い、学生が自ら向上することを大学の教育活動全体を通じて支援する「職業指導（キャリアガイダンス）」を適切に大学の教育活動に位置づけることの必要性が示された。

この答申を受けて中央教育審議会大学分科会で検討が行われ、その結果、2010年1月に大学設置基準が改正され、「社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を培うための体制（第42条の2）」が規定された。そこでは「大学は、当該大学及び学部等の教育上の目的に応じ、学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする」と規定されている。

この規定の新設を受けて、2011年4月から各大学は教育課程の内外を通して、キャリアガイダンスを実施することが義務付けられ

た。そのための実施体制の整備が各大学の急務となっている。

1. 2 キャリアガイダンスのツールとしての「就職活動体験記録」の意義

筆者らはこれまでの研究で、東京都内のビジネス系短期大学（通学課程）を事例に、就職活動の既経験者（2年生）が作成した「就職活動体験記録」が持つキャリアガイダンスのツールとしての可能性¹⁾とそれを用いた学習システムの構築²⁾について、テキストマイニング手法を用いた分析を通して検討を行ってきた。その中では、主に次の2つのことについて明らかにしてきた。

第一に、「就職活動体験記録」の頻出語と関連・共変用語のクラスター探索を通して、年度ごとの推移や変化が見られることを明らかにし、データの蓄積によって有効な教育プログラムを開発する手がかりが得られる可能性を示唆したことである³⁾。

第二に、学生による「就職体験記録」の活用は、大別して4つの効用があることである⁴⁾。すなわち、一つ目に学生自身が自分の経験を他者の視点をもって客観化し総括する作業としての価値があること、二つ目に、就職活動中の学生が直面している就職市場の動向とそれに伴う困難や困惑の実態を教育スタッフ、キャリア支援スタッフが、そのメンタル面の様相も推測できる形で知る手掛かりとなること、三つ目に、年度ごとの背景的な求人状況で多少の変動があるものの、先輩から後輩への活動経験や情報、教訓などの伝承が可能になること、四つ目に「伝承機能」をさらに発展させたときにその効用はさらに大きなものとなることである。

1.3 本研究の課題

—「就職活動体験記」のキャリアガイダンスツールとしての有用性の検討

本研究では、1.2で示した効用のうち三つ目（先輩から後輩への情報伝達ツールとしての効用）に着目し、「就職活動体験記録」のキャリアガイダンスのツールとしての可能性について検討することを目的とする。すなわち、就職活動をすでに経験した学生が作成した事例（「就職活動体験記」）を参照することが、これから就職活動を体験する学生の実際の就職活動に与えた影響について考察することを通して、「就職活動体験記」が持つキャリアガイダンスツールとしての有用性を検討する。

青年前期にある大学生にとって、初職を見つけるという探索活動は、それまでの人生で得た社会的スキルだけでは乗り切れない新しい「危機」（E.エリクソン）となる。このような特徴を持つ就職活動に対する支援の中では、他者（就職活動体験者）の体験から学ぶ機会を提供することは大きな価値を持つと考えられる。具体的には、すでに就職活動を体験している経験者が作成した体験記を読むことを通して、就職活動を疑似体験し、自らの就職活動に備えるということである。

本研究では東京都内のビジネス系短期大学（通学課程）を事例として、「就職活動体験記」を用いた次のようなキャリアガイダンスプログラムを検討の対象とする。すなわち、1年次後期開設のキャリアガイダンスに関する必修科目のレポート課題として、1年生が2年生の作成した「就職体験記」を読むことを通して1年生が就職体験を疑似体験するというプログラムである。このような疑似体験が自ら

（1年生）の就職体験（キャリア支援センターへの相談開始時期・相談頻度、内定状況）に与えた影響を検討し、このプログラムの効果測定を行う。このことを通して、「就職活動体験記」のキャリアガイダンスツールとしての有用性を検討する。

2. 本研究の方法

2.1 対象者と時期

東京都内のビジネス系短期大学（通学課程）に在学し、2010年度に「就業とキャリア」科目（1年次必修科目）を受講し、進級した2年生が本研究の分析対象となる。これらの学生が記述した『「就職活動体験記」の受け止め』について、テキストマイニングを実施する。本研究で取り上げる『「就職活動体験記」の受け止め』とは、1年後期に「学びのサポート」科目において2年生より提示された「就職活動体験記」について、①これらを通読して考察した就職活動に関する自分の考え（以下、「就職活動についての考え」と）、②共感するケースとその理由（以下、「共感するケース」）を述べたものである（表1）。これら2つをあわせて本研究では、『「就職活動体験記」の受け止め』とする。なお、「共感するケース」で学生が取り上げるケースの選択は個々の学

表1「就業とキャリア」レポート問題＝『「就職活動体験記」の受け止め』

学びのサポート「就職活動体験ケース集」について次の点をまとめなさい。

- ① ケース集を通読して、就職活動について自分の考えを述べなさい。
- ② ケース集の中から共感をもったものをひとつ選び、共感をもった点とその理由をのべなさい。

入手記述数 374名分

生に委ねられている。

この「『就職活動体験記』の受け止め」の記述の状況とその後（2011年1月以降）の就職活動の状況（キャリア支援センターへの相談開始時期・相談頻度、内定状況）を対照させ、就職活動の疑似体験がその後の就職活動にどのような変化をもたらしたか観察する。

2. 2 テキストマイニングと就職活動状況調査の方法

本研究においてはテキストマイニング、特に記述内容のクラスターの分類にはテキスト型データ解析ソフトウェア「Word Miner」（日本電子計算株式会社）、任意の語群を用いたテキスト分類には「SPSS Text Analytics for Surveys」（IBM）を用いた。また就職活動状況の把握に関してはキャリア支援センターで記録する「進路登録カード」の記述から、相談開始時期、相談頻度、内定状況を把握した。

3. 「『就職活動体験記』の受け止め」の解析結果

3. 1 頻出語の抽出について

「『就職活動体験記』の受け止め」より抽出された頻出語を表2-1（就職活動についての考え）および表2-2（共感するケース）に示す。キーワードを抽出する前処理として語の除外や置換といった処理は実施していない。分析の対象としたレポートの題意により「就職活動」、「自分」、「共感」といった語は文章中に当然に出現すべき語のため出現比率も高いものになっているが、次に実施するクラスタリングにおいてはほとんどの文章に出現し、その文章の特徴を表す語にはなり得ないため、除外してクラスタリングを行うこととした。

表2-1 就職活動についての考え

順位	構成要素	サンプル度数	出現比率
1	就職活動	360	96.3%
2	自分	330	88.2%
3	私	280	74.9%
4	企業	229	61.2%
5	ケース集	201	53.7%
6	大切	197	52.7%
7	人	195	52.1%
8	何	156	41.7%
8	今	156	41.7%
10	面接	153	40.9%
11	行動	152	40.6%
12	説明会	134	35.8%
13	中	132	35.3%
14	先輩	127	34.0%
15	仕事	121	32.4%
15	方	121	32.4%
17	ケース	117	31.3%
18	内定	112	29.9%
19	就職	111	29.7%
20	気持ち	110	29.4%
20	通読	110	29.4%

表2-2 共感するケース

順位	構成要素	サンプル度数	出現比率
1	共感	362	96.8%
2	私	344	92.0%
3	自分	311	83.2%
4	就職活動	281	75.1%
5	ケース	264	70.6%
6	中	177	47.3%
7	点	169	45.2%
8	今	164	43.9%
9	大切	158	42.2%
10	企業	156	41.7%
11	人	154	41.2%
12	面接	127	34.0%
13	気持ち	125	33.4%
14	ケース集	119	31.8%
14	理由	119	31.8%
16	A子	117	31.3%
17	仕事	111	29.7%
18	何	107	28.6%
18	時	107	28.6%
20	行動	102	27.3%

3.2 クラスタリングの実施

『就職活動体験記』の受け止め」より抽出されたキーワードを用いて対応分析（数量化Ⅲ類）を行った結果を表3-1（就職活動についての考え）および表3-2（共感するケース）に示す。就職活動に対する自分の考え、共感するケースともに20のクラスターに分類されたが、紙幅の関係から出現比率の多い順にならべて累積率90%となる点までを示す。

なお「就業とキャリア」科目のレポート課題として1年生が通読した2010年度「就職活動体験記」のクラスタリングの結果は、表4のようになる。

表3-1 就職活動についての考え

No.	件数	累積	累積率	主題	クラスターを特徴づけるキーワード
4	56	56	15.0	職種選び	セミナー、職種、満足、職業、興味
3	51	107	28.6	活動開始時期	1年生、参加、共有、一歩、エントリー
16	46	153	40.9%	面接体験	面接、面接官、企業研究、質問、徹底
1	28	181	48.4%	仲間のサポート	仲間、感謝、相談、周り、ひとり
5	27	208	55.6%	企業選択	最終面接、妥協、どうせ、学校推薦、先入観
6	24	232	62.0%	就職情報サイト	大丈夫、一言、登録、リクナビ、マイナビ
11	21	253	67.6%	コースの学習と医療業界	医療事務、医療情報サービスコース、一般企業、勉強
19	19	272	72.7%	会場への遅刻(1)	余裕、時間、遅刻、家、電車
7	16	288	77.0%	企業選択の要素	やりがい、職、給料、決断、お金
17	16	304	81.3%	希望職種への就職	軸、コミュニケーション、夢、表現、接客業
8	12	316	84.5%	コースの学習と旅行業界	観光国際コース、ホテル、旅行会社、不況、現実
20	12	328	87.7%	会場への遅刻(2)	地図、駅、遅刻、場所、余裕
15	9	337	90.1%	就職準備：自己分析	短所、長所、グループ面接、自己分析、ポイント
他	37	374	100%		

表3-2 共感するケース

No.	件数	累積	累積率	主題	クラスターを特徴づけるキーワード
14	57	57	15.2%	経済状況と就職	就職難、参加、状況、困難、時代
20	46	103	27.5%	周囲との人間関係	相談、地道、意見、友達、家族
5	40	143	38.2%	会場への遅刻	事前、場所、地図、余裕、確認
16	29	172	46.0%	就職先選びと自己分析	生活、生き方、企業選び、機会、志望動機
12	27	199	53.2%	希望職種	幅、職種、就職先、分野、職業
3	26	225	60.2%	失敗体験	S P I、対策、遅刻、勉強、説明会会場
13	22	247	66.0%	就職環境と志望先との折り合い	大学、欠点、就職困難、状況、妥協
4	21	268	71.7%	面接試験	面接官、暗記、面接時、多少、自信
11	19	287	76.7%	会社選び	企業研究、魅力、社風、第一希望、業界
6	17	304	81.3%	会場への遅刻	地図、道、下調べ、駅、当日
18	15	319	85.3%	周囲との人間関係	慎重、助け合い、仲間、先生、協力
19	13	332	88.8%	就職の困難さ	不合格、友人、キャリア支援、最終選考、キャリア
15	9	341	91.2%	就職情報	サイト、登録、マイナビ、ページ、現実
他	33	374	100%		

表4 2010年度「就職活動体験記」

No.	件数	累積 段落数	累積率	主題	クラスターを特徴づけるキーワード
20	196	196	10.7%	採用試験の結果	面接、結果、内定、不採用、練習
14	175	371	20.3%	周囲の人間の支援	大切、自分、家族、人、大事
4	157	528	28.9%	就職活動のプロセス	参加、エントリー、説明会、合同説明会、企業
3	151	679	37.2%	職種に関すること	キャリア支援センター、職種、興味、相談、求人
6	140	819	44.9%	内定時期と友人の励まし	夏休み、内定、友人、周り、久しぶり
12	109	928	50.8%	志望する業界	仕事、ブライダル、接客、お客様、視野
24	107	1035	56.7%	採用試験に関すること	志望動機、質問、通過、自己PR、面接
1	95	1130	61.9%	就職活動開始時期	2年生、1年生、短期大学、登録、本格的
18	81	1211	66.3%	エントリー、会社説明会など初期の就職活動	メール、ハード、予約、短期間、連絡
42	63	1274	69.8%	会場への遅刻(2)	駅、地図、電車、場所、会場
13	58	1332	72.9%	行き先の確認	大切、事前、余裕、実感、今回
41	58	1390	76.1%	会場への遅刻(1)	遅刻、道、地図、到着、駅
23	56	1446	79.2%	集団面接を含む面接試験	グループ、発表、番、面接官、声
5	52	1498	82.0%	就職とファッション	髪、黒く、着て、クラス、新学期
43	43	1541	84.4%	会場への遅刻(3)	地図、道、建物、駅、時計
19	41	1582	86.6%	就職活動の失敗	持ち物、履歴書、完成、下書き、清書
15	38	1620	88.7%	医療関係への就職	医療事務、病院、資格、歯科助手、求人
16	33	1653	90.5%	採用試験に関すること	S P I、一次試験、一般常識、勉強、採用試験
他	173	1826	100%		

3.3 就職活動の状況について

『就職活動体験記』の受け止め」を記述した学生の就職活動の状況について、キャリア支援センターで相談カルテとして使用している進路登録カードより調査した結果は図1～3に示すとおりである。キャリア支援センターの相談開始時期については1月～4月に開始した学生が62.1%となり、それ以降に相談を開始した学生と未接触の学生の総計は37.9%となる（図1）。このことから4月までに相談したか否かでほぼ2分することができる。キャリア支援センターへの相談頻度は、月1回未満が53.9%，それ以上が46.1%となる。月1回以上の相談があったか否かでほぼ2分するこ

とができる。また12月時点での内定者は52%，それ以外の学生は48%（図3）で、12月時点で内定を取得したか否かで2分することができる。

図1 キャリア支援センターへの相談開始時期

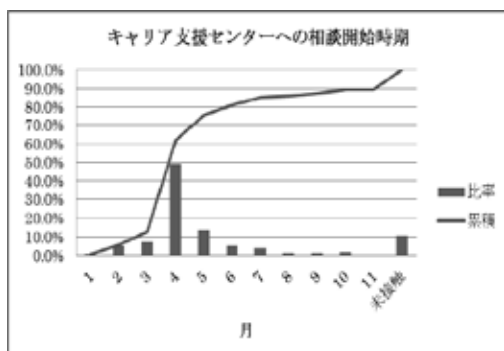


図2 月あたりの相談頻度

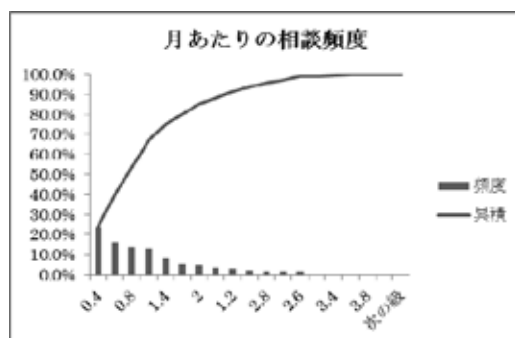


図3 内定獲得時期

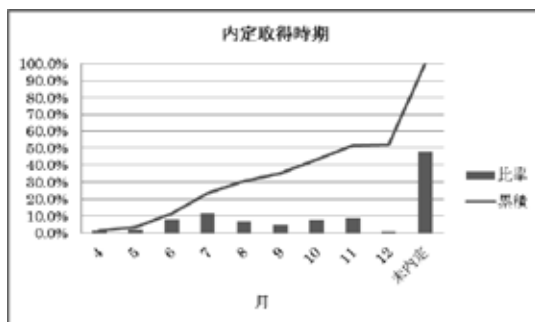
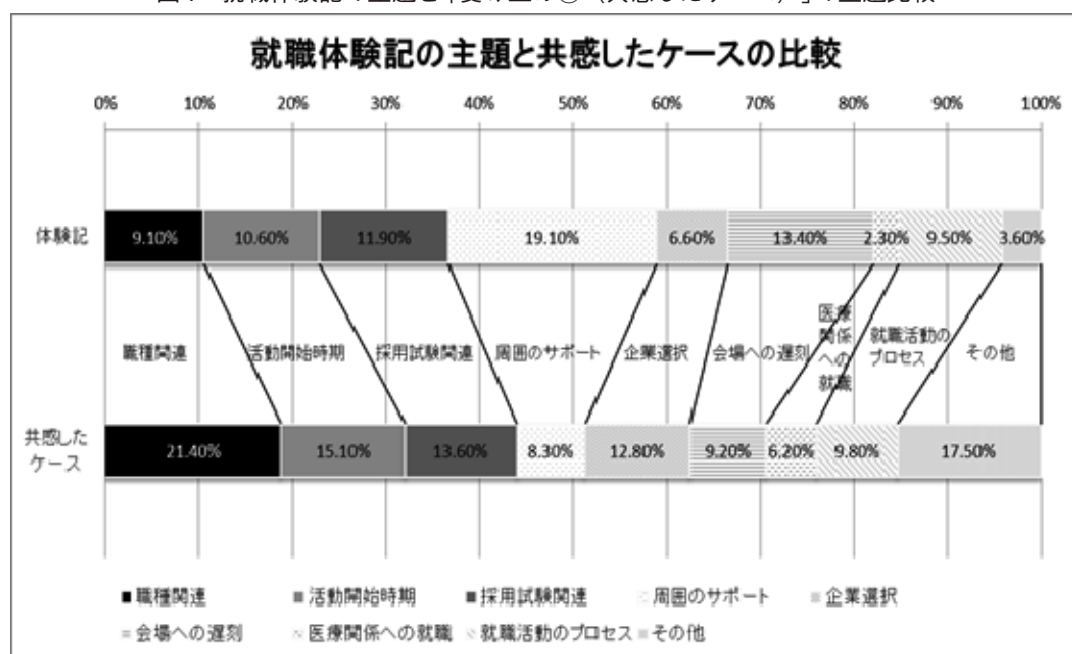


表5 2010年度「就職活動体験記」と「共感したケース」の主題集約結果

No.	集約した主題	2010年度 就職活動体験記	共感したケース
1	職種関連	職種に関すること(#3)	職種選択(#4)、希望職種への就職(#17)
2	活動開始時期	就職活動開始時期(#1)、エントリー、会社説明会など初期の就職活動(#18)	活動開始時期(#3)
3	採用試験関連	採用試験に関すること(#24)、集団面接を含む面接試験(#23)、採用試験に関すること(#16)	面接体験(#16)
4	周囲のサポート	周囲の人間の支援(#14) 内定時期と友人の励まし(#6)	仲間のサポート(#1)
5	企業選択	志望する業界(#12)	企業選択(#5)、企業選択の要素(#7)
6	会場への遅刻	会場への遅刻(#41、#42、#43)、行き先の確認(#13)	会場への遅刻(#19、#20)
7	医療関係への就職	医療関係への就職(#15)	コースの学習と医療業界(#11)
8	就職活動のプロセス	就職活動のプロセス(#4)	就職情報サイト(#6)

注) 表内の#はそれぞれの項目のクラスター番号を表すものである。

図4 就職体験記の主題と「受け止め②（共感したケース）」の主題比較



3. 4 提示された就職活動体験記と「受け止め②（共感したケース）」の比較

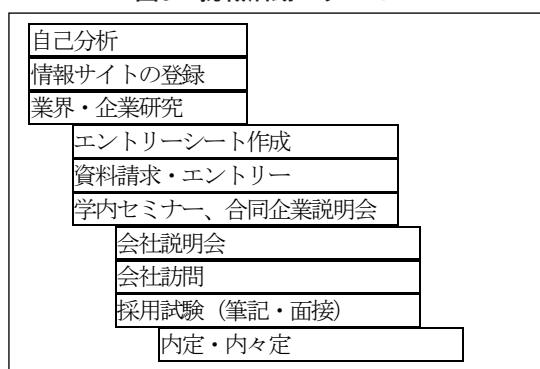
表4で示した1年生がレポート課題の中で通読した就職活動体験記の主題と表3-2で示した「共感したケース」の主題の比率を比較するため、両者の主題を表5のように集約する。表5で示したように集約した主題で就職活動体験記と「共感したケース」を比較すると図4のようになる。

内定を獲得するまでの就職活動のプロセス（図5）は、自己分析や情報収集を行う時期（活動準備期）、選考を受ける企業を選択し、応募書類を送付するまでの時期（活動初期）、採用選考を受ける時期（活動本格期）、内定獲得し活動を終了する時期（活動終了）に大まかに区分することができよう。

「就職活動体験記」では「周囲のサポート」や、「会場への遅刻」といった活動本格期に

関する主題が多い。一方で、「共感するケース」のクラスターでは、業種関連、活動開始時期、企業選択といった活動初期段階に行う活動やそれに関連する主題に学生が共感している傾向を、図4からみることができる。

図5 就職活動のプロセス



※就職活動サイト、大学のWebページ、対象校就職支援資料より作成

3.5 「『就職活動体験記』の受け止め」の記述内容と就職活動状況

「就職活動についての考え」と「共感するケース」のそれぞれの記述内容（クラスター）を、進路登録カードから把握できる学生の就職活動状況（センターへの相談開始時期および来窓頻度）と学生の内定状況を検討する。

3.5.1 キャリア支援センターへの相談開始時期

3.3で示した図1をもとに、キャリア支援センターへの相談開始時期を就職活動の開始時期ととらえ、4月中までに相談開始した学生を「早い」群、それ以降に相談開始あるいは相談未実施の学生を「遅い」群として、「就職活動についての考え」と「共感するケース」のそれぞれ記述内容により分類すると図6のとおりとなる。記述内容により相談開始時期に大きな差はみられない。「就職活動についての考え」でクラスター18「周囲との人間関係」に言及した学生の割合が「早い」群において若干多い程度である。

「就職活動についての考え」についての χ^2 二乗検定の危険率0.448,「共感するケース」については0.101で両者の主題の分布に明確な差があるとは認められない。

図6 「就職活動についての考え」および「共感したケース」と相談開始時期

「就職活動についての考え」と相談開始時期

No.	主題	少ない	多い
14	経済状況と就職	16.5%	13.3%
20	周囲との人間関係	14.0%	8.3%*
5	会場への遅刻	7.0%	19.2%*
16	就職先選びと自己分析	9.1%	5.8%
12	希望職種	7.4%	6.7%
3	失敗体験	7.0%	6.7%
13	就職環境と志望先との折り合い	5.3%	7.5%
4	面接試験	5.3%	6.7%
11	会社選び	7.0%	0.8%*
6	会場への遅刻	1.6%	9.2%*
18	周囲との人間関係	4.5%	3.3%
19	就職の困難さ	4.1%	1.7%
15	就職情報	2.1%	3.3%
	その他	9.1%	7.5%

「共感したケース」と相談開始時期

No.	主題	少ない	多い
4	職種選び	16.9%	11.7%*
3	活動開始時期	12.3%	15.8%
16	面接体験	11.5%	15.0%
1	仲間のサポート	7.4%	6.7%
5	企業選択	6.6%	7.5%
6	就職情報サイト	7.4%	4.2%
11	コースの学習と志望業界	4.1%	9.2%*
19	会場への遅刻	5.3%	5.0%
7	希望職種への就職	6.2%	0.8%*
17	企業選択の要素	3.3%	5.8%
8	会場への遅刻	4.5%	0.0%
20	コースの学習と志望業界	2.9%	3.3%
15	就職準備:自己分析	2.1%	3.3%
	その他	9.5%	11.7%

注) 表左の*は両群において5%以上の差があるものを示す。

3.5.2 キャリア支援センターへの相談頻度

3.3で示した図2をもとに、相談頻度が月1回未満の学生を「少ない」群、月1回以上の学生を「多い」群として相談頻度と「『就職活動体験記』の受け止め」を記述内容（クラスター）により分類すると図7のとおりとなる。これも記述内容により著しい差はみられないが、相談頻度の少ない群は「就職活動に

についての考え」について「周囲との人間関係」、「会社選び」、「共感したケース」について「職種選び」、「希望職種への就職」といった内容に反応しているのが特徴的である。

「就職活動についての考え」についての χ^2 乗検定の危険率は0.03、「共感したケース」については0.02で、両者の主題分布の差は5%水準で有意である。

図7 「就職活動についての考え」および「共感したケース」とキャリア支援センターへの相談頻度

「就職活動についての考え」と相談頻度

No.	主題	少ない	多い
14	経済状況と就職	16.5%	13.3%
20	周囲との人間関係	14.0%	8.3%*
5	会場への遅刻	7.0%	19.2%*
16	就職先選びと自己分析	9.1%	5.8%
12	希望職種	7.4%	6.7%
3	失敗体験	7.0%	6.7%
13	就職環境と志望先との折り合い	5.3%	7.5%
4	面接試験	5.3%	6.7%
11	会社選び	7.0%	0.8%*
6	会場への遅刻	1.6%	9.2%*
18	周囲との人間関係	4.5%	3.3%
19	就職の困難さ	4.1%	1.7%
15	就職情報	2.1%	3.3%
	その他	9.1%	7.5%

「共感したケース」と相談頻度

No.	主題	少ない	多い
4	職種選び	16.9%	11.7%*
3	活動開始時期	12.3%	15.8%
16	面接体験	11.5%	15.0%
1	仲間のサポート	7.4%	6.7%
5	企業選択	6.6%	7.5%
6	就職情報サイト	7.4%	4.2%
11	コースの学習と志望業界	4.1%	9.2%*
19	会場への遅刻	5.3%	5.0%
7	希望職種への就職	6.2%	0.8%*
17	企業選択の要素	3.3%	5.8%
8	会場への遅刻	4.5%	0.0%
20	コースの学習と志望業界	2.9%	3.3%
15	就職準備:自己分析	2.1%	3.3%
	その他	9.5%	11.7%

注) 表左の*は両群において5%以上の差があるものを示す。

3.5.3 内定状況

3.3の図3をもとに、12月時点で内定した学生と未内定の学生を「『就職活動体験記』の受け止め」の記述内容により分類すると図8のとおりとなる。これも記述内容により大きな差はみられない。「就職活動についての考え」におけるクラスター13「就職環境と志望先との折り合い」、クラスター04「面接試験」について述べた学生が「未内定」群に比べて「内定」群に多いことが特徴である。

「就職活動についての考え」についての χ^2 乗検定の危険率は0.352、「共感したケース」については0.236で両者の主題分布に明確な差があるとは言えない。

図8 「就職活動についての考え」および「共感したケース」と内定状況

「就職活動についての考え」と内定状況

No.	主題	未内定	内定
14	経済状況と就職	17%	14%
20	周囲との人間関係	18%	12%
5	会場への遅刻	10%	11%
16	就職先選びと自己分析	7%	9%
12	希望職種	7%	8%
3	失敗体験	9%	5%
13	就職環境と志望先との折り合い	4%	8%
4	面接試験	3%	8%
11	会社選び	6%	4%
6	会場への遅刻	7%	3%
18	周囲との人間関係	2%	6%
19	就職の困難さ	3%	4%
15	就職情報	2%	3%
	その他	10%	8%

表左の*は両群において5%以上の差があるものを示す。

「共感したケース」と内定状況

No.	主題	未内定	内定
4	職種選び	16%	14%
3	活動開始時期	14%	14%
16	面接体験	11%	13%
1	仲間のサポート	7%	8%
5	企業選択	8%	7%
6	就職情報サイト	9%	5%
11	コースの学習と志望業界	5%	7%
19	会場への遅刻	3%	7%
7	希望職種への就職	3%	5%
17	企業選択の要素	3%	5%
8	会場への遅刻	2%	5%
20	コースの学習と志望業界	5%	2%
15	就職準備:自己分析	3%	2%
	その他	10%	10%

3. 6 具体的な記述内容が就職活動におよぼす影響

『「就職活動体験記」の受け止め』に記載された具体的なキーワードとそれに関連する具体的な就職活動の状況について分析を行う。ここでは、具体的な就職活動の状況として、活動の開始時期と活動の継続性を取り上げ、これらの活動と内定状況および『「就職活動体験記」の受け止め』に記載されたキーワード（「早く活動」および「諦めない」）の出現率との関係を検討する。

3. 6. 1 活動開始時期と『「就職活動体験記」の受け止め』に記載されたキーワード（早く活動）の出現率

まず就職活動の開始の時期と内定状況の関連について就職活動状況の調査結果（表6-1-1）からみると就職相談の早い群は内定率が高いことがわかる。就職相談の開始時期と内定率の χ^2 乗検定の危険率はほぼ0であり、差があることが認められる。就職活動を早く始めることは内定率を高めることにつながる

とすれば、活動を早めることは有効な今後のキャリア形成に関しても有効な施策である。

それでは、『「就職活動体験記」の受け止め』で早期の就職活動が重要であることに言及した学生は本当に早期に就職活動を開始しているであろうか。ここではこの点について検討を加える。表6-1-2のように「早く」というキーワードに言及している群はそうでない群に対して、相談時期が早い割合が高くなっている。

「早く活動」することへの言及の有無と就職活動開始時期についての χ^2 乗検定の危険率は0.008であり、1%水準で有意である。早めの就職活動が重要であると考えた群は実際にそのように行動している割合が高いと言える。

表6-1-1 開始時期と内定未内定 のクロス表

			内定未内定		合計
			内定	未内定	
相談時期	早い	度数	148	92	240
		比率	61.7%	38.3%	100.0%
	遅い	度数	52	71	123
		比率%	42.3%	57.7%	100.0%
合計		度数	200	163	363
		比率	55.1%	44.9%	100.0%

表6-1-2 早めの活動への言及 と 相談開始時期
のクロス表

			内定未内定		合計
			内定	未内定	
相談時期	早い	度数	148	92	240
		比率	61.7%	38.3%	100.0%
	遅い	度数	52	71	123
		比率%	42.3%	57.7%	100.0%
合計		度数	200	163	363
		比率	55.1%	44.9%	100.0%

3. 6. 2 活動の継続性と『就職活動体験記』の受け止め」に記載されたキーワード（諦めない）の出現率

それでは就職活動を「諦めない」ことが重要と言及した学生の実際の就職活動行動を把握する。実際に「諦めない」という心的状態を観察することは難しいが、就職活動を継続する＝キャリア支援センターと接触を持つ（センターに来窓する）と考えてその結果を集計すると表6-2に示すとおりである。ここでは相談回数3回以下を少ない群（分析対象者のうち42%）、4回以上を多い群（同58%）として区分している。

内定している群は「諦めない」という言及の有無に関わらず、キャリア支援センターへの相談回数が多い傾向にあることがわかる。ただし「諦めない」という言及をした群の方が相談回数は少ない傾向にある。内定している群の「諦めない」という言及の有無とキャリア支援センターへの相談回数の多寡の χ^2 乗検定の危険率は0.016であり5%水準で有意である。未内定者の群の「諦めない」という言及の有無とキャリア支援センターへの相談回数の多寡の χ^2 乗検定の帰無仮説の有意確率も0.337で、未内定者の群については、差は明確ではない。

表6-2 「諦めない」ことへの言及と相談回数と
内定状況のクロス表

内定未内定				相談回数		合計	
				少ない	多い		
内定	諦めない	言及なし	度数 割合	55 31.8%	118 68.2%	173 100.0%	
		言及あり	度数 割合	15 55.6%	12 44.4%	27 100.0%	
		合計		度数 割合	70 35.0%	130 65.0%	200 100.0%
	未内定	諦めない	言及なし	度数 割合	55 39.6%	84 60.4%	139 100.0%
言及あり			度数 割合	12 50.0%	12 50.0%	24 100.0%	
合計			度数 割合	67 41.1%	96 58.9%	163 100.0%	
合計		諦めない	言及なし	度数 割合	110 35.3%	202 64.7%	312 100.0%
	言及あり		度数 割合	27 52.9%	24 47.1%	51 100.0%	
	合計		度数 割合	137 37.7%	226 62.3%	363 100.0%	

4. おわりに—考察と結論—

3の『就職活動体験記』の受け止め」から、「就職活動体験記」を読んだ1年生が共感するケースは就職活動の初期についてのケースに偏る傾向があることが分かった（図4）。これは就職活動全般を通してのリアリティーをまだもつことが難しいことの表れであろう。特に就職試験の結果や会場への遅刻を除いた失敗体験（たとえば就職試験の可否など）に対しては、直接の反応をほとんど見せていない。このことは、就職活動未経験者である1年生

にとって、就職活動を始めるということ自体が大きな障壁であり、受験した結果の可否はまだ先の話、あるいは個別の結果について自分に当てはめて考えることが難しい可能性があることを示唆しているといえる。

3.5で示したように、『就職活動体験記』の受け止め」の記述の内容によって明確な就職活動における行動の差は観測できないものの、特定の内容、例えば希望職種へのこだわりがあるケースや記載されたキーワード、「早い」時期から就職活動を始めるといった具体的な言及は行動に影響を及ぼすことがわかった。反面「諦めない」というような、実際に行動を開始し体験してみるまでは、実感がつかめない、あるいは具体的な行動をどうすればよいか想像できない抽象的なキーワードでは、実際の就職活動における行動に結びつかない場合もあることがわかった。

以上の考察から、「就職活動体験記」を記述させることは、記述する本人にとって「自己分析学習とセルフ・カウンセリングの一環」としての意味があるが、これから就職活動を体験する学生に、この「就職活動体験記」を読ませることにより「就職活動開始前夜の就業リアリティーを醸成」させるという効果を生むこともできること、すなわち、「就職活動体験記」が有するキャリアガイダンスツールとしての有用性が確認できた。

しかしながら、そのリアリティーは限定的であり、具体的な準備に結びつけるというよりも、漠然とした不安という形でとらえられていることが看取できた。

5. 今後の課題

就職活動体験のケースを読ませ、就職活動を疑似体験させることは、就職活動への行動の変容を促し、リアリティーを醸成させる有効な方法である。その受け止めの記述から就職活動に影響を及ぼすキーワードを発見することもできる。

しかしリアリティーの醸成は就職活動前期のイベントに偏る傾向があり、1年次後期に1回記述したレポートの内容で、長期化する就職活動全体にわたる行動を規定することは難しい。適切な時期に適切な情報を提供できるしくみづくりが重要である。本研究により記述されたケースを自動的にカテゴライズすることも可能であることがわかった。就職活動を行っている学生が必要に応じて、あるいは教員が必要な学生に適切なケースを提供するためのシステムを構築することが可能であろう。

「就職活動体験記」やその受け止めを書かせるだけではなく、その内容をもとに就職活動をサポートしていく必要が考えられる。事実、多くの学生が周囲の支援の大切さを「就職活動体験記」で述べている。学校内だけでも「教員」、「キャリア支援センター職員」、「学友」といった関係者がサポートを行う可能性がある。そのサポートのツールとして「就職活動体験記」やその受け止めは強力なツールである。

しかしそうした利用を考える際に、レポートといった紙ベースでの管理だけではそうした活動は困難であり、複数回記述させるといったコストも報告者にとって負担となる。

Twitterなどの仕組みを利用して就職活動に関する「つぶやき」を集積することで、同

様の情報を集積したデータベースを作成することができるのではないかな。

附記

本研究は、文部科学省科学研究費・基盤研究(C) 課題番号22500953 『学生間コミュニケーションを活性化するシステムを核としたキャリア形成支援プログラム』の一環として行われた。

注

1. 豊田雄彦, 竹内美香, 岩崎暁, 菅井郁. テキストマイニングによる「就職活動体験記」の分析. 自由が丘産能短期大学紀要. vol.43. p.1-13 2010
2. 竹内美香, 豊田雄彦, 石嶺ちづる. 「就職活動体験記」に類出する感情体験表現と出現文脈の検討. 自由が丘産能短期大学紀要. vol.44. p.55-73 2011
3. 豊田, 竹内, 岩崎, 菅井, 前掲
4. 竹内, 豊田, 石嶺, 前掲

参考文献

- 渡辺三枝子. 新版 キャリアの心理学 キャリア支援への発達のアプローチ. 2007, ナカニシヤ出版, 京都
- 中央教育審議会・大学分科会. 大学における社会的・職業的自立に関する指導(キャリアガイダンス)の実施について(審議経過概要).
- http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1288248.htm (参照日2012-01-11)
- DISCOVER for Windows ACT, Inc. 2007, Iowa City, IA : Author

Erikson, E.H. Identity : Youth and Crisis, W.
W. Norton & Company, New York. 1968.

Bleier, J.K. "The impact of career counseling
plus" DISCOVER (internet version) on
the academic achievement of high school
sophomores at risk for dropping out of
school. Dissertation Abstracts

International : Section B : The Sciences and
Engineering, 68/2-B, 1294.2007.

Brake, R.G. The effects of DISCOVER
career guidance software on career
decision-making self-efficacy of adolescents in
foster care. Dissertation Abstracts

International : Section B, 62/5-B, 2477. 2001

Katz, M.R. IGI : A computer-based system of
interactive guidance and information.
Princeton, NJ : Educational Testing
Service. 1975

Sharf, R.S. "Theories in Combination :
Computerized Guidance Systems – Internet" :
Chapter 16 of Applying Career
Development Theory to Counseling. 5th
Edition, Brooks/Cole, CA. USA.2005

Super, D.E. A life-span, life-space approach to
career development. In D.Brown &
L.Brook (Eds.), Career choice and
development : Applying contemporary
theories to practice. San Francisco :
Jossey-Bass. 197-261.1990

VALPAR International SIGI3. [Computer
Program] . Tuscon, AZ : Author. 2007

Zunker, Vernon G., "Technology in the mille-
nnium". From Career Counseling 7 : A
Holistic Approach, Thomson Brooks/Cole,
Thomson Corporation, CA, USA. 2006